ＭＧＣ	1　設備量の算定 ⑴　コア局が属する中継区域内の接続呼の最繁時呼数を当該区域内のコア局数で除したものをコア局当たり接続呼最繁時呼数とし、これをＭＧＣ収容率及びＭＧＣ１ユニット当たり最大処理最繁時呼数で除したもの（１に満たない端数は、切り上げるものとする。）をＭＧＣユニット数とする。 ⑵　⑴のＭＧＣユニット数を冗長化考慮したものを冗長化後ＭＧＣユニット数とする。 ⑶　⑴のコア局当たり接続呼最繁時呼数をＭＧＣ用データベース（以下「ＭＧＣ用ＤＢ」という。）収容率及びＭＧＣ用ＤＢ１ユニット当たり最大処理最繁時呼数で除したもの（１に満たない端数は、切り上げるものとする。）をＭＧＣ用ＤＢユニット数とし、これに冗長化係数を乗じたものを冗長化後ＭＧＣ用ＤＢユニット数とする。 2　投資額の算定 次の算定式により局ごとＭＧＣ投資額を求め、全ての局について当該投資額を合算し、ＭＧＣ投資額を算定する。 局ごとＭＧＣ投資額 ＝冗長化後ＭＧＣユニット数×ＭＧＣユニット単価 ＋冗長化後ＭＧＣユニット数×ＭＧＣソフトウェア単価 ＋冗長化後ＭＧＣ用ＤＢユニット数×ＭＧＣ用ＤＢユニット単価
ＳＧＷ	1　設備量の算定 ⑴　コア局が属する中継区域内の接続呼の最繁時信号数を当該区域内のコア局数で除したものをコア局当たり接続呼最繁時信号数とし、これをＳＧＷ１リンク当たり信号数で除し（１に満たない端数は、切り上げるものとする。）、信号区域間リンク分散数を乗じたものをコア局当たり信号リンク数とする。 ⑵　コア局ごとに、次のア及びイにより算定したユニット数のうちいずれか大きいものを当該局のＳＧＷユニット数とし、これに冗長化係数を乗じたものを当該局の冗長化後ＳＧＷユニット数とする。 ア　⑴のコア局当たり信号リンク数をＳＧＷ収容率及びＳＧＷ１ユニット当たり最大リンク数で除したもの（１に満たない端数は、切り上げるものとする。） イ　冗長化後ＭＧＷユニット数をコア局当たりポイントコード数とし、これをＳＧＷ収容率及びＳＧＷ１ユニット当たり最大処理ポイントコード数で除したもの（１に満たない端数は、切り上げるものとする。） 2　投資額の算定 次の算定式により局ごとＳＧＷ投資額を求め、全ての局について当該投資額を合算し、ＳＧＷ投資額を算定する。 局ごとＳＧＷ投資額 ＝冗長化後ＳＧＷユニット数×ＳＧＷユニット単価 ＋冗長化後ＳＧＷユニット数×ＳＧＷソフトウェア単価
信号用中継交換機	1　設備量の算定 ⑴　局ごとに、アナログ電話及び総合デジタル通信サービスの最繁時呼数にそれぞれ１呼当たり信号数を乗じたものの合計を最繁時信号数とし、これに接続呼比率を乗じたものをＩＣ接続呼最繁時信号数とする。 ⑵　⑴のＩＣ接続呼最繁時信号数にＩＣトランジット呼最繁時信号数を加え、東西別に全ての局について合計し、信号区域数で除したものをＳＴＰ（信号用中継交換機をいう。以下同じ。）最繁時信号数とする。 ⑶　コア局当たり接続呼最繁時信号数から算定したコア局当たり信号リンク数を東西別に全てのコア局について合計し、信号区域数で除したものをＳＴＰ渡り以外リンク数とする。 ⑷　ＳＴＰ設置局ごとに、次のア及びイにより求めたユニット数のうちいずれか大きいものを当該局のＳＴＰユニット数とする。 ア　当該局が属する信号区域のＳＴＰ渡り以外リンク数をＳＴＰ収容率及びＳＴＰ１ユニット当たり最大リンク数（ＳＴＰ対当たり渡りリンク数を減じたもの。）で除したもの（１に満たない端数は、切り上げるものとする。） イ　当該局が属する信号区域のＳＴＰ最繁時信号数をＳＴＰ１ユニット当たり処理信号数で除したもの（１に満たない端数は、切り上げるものとする。） ⑸　ＳＴＰ設置局ごとに、ＳＴＰユニット数にＳＴＰ対当たり渡りリンク数を乗じたものを当該局のＳＴＰ渡りリンク数とする。 ⑹　ＳＴＰ設置局がコア局以外の場合は、当該局が属する信号区域のＳＴＰ渡り以外リンク数及びＳＴＰ渡りリンク数の合計を当該局のＳＴＰリンク数とする。ＳＴＰ設置局がコア局の場合は、当該局が属する信号区域のＳＴＰ渡り以外リンク数及びＳＴＰ渡りリンク数の合計から当該コア局のコア局当たり信号リンク数を減じたものをＳＴＰリンク数とする。 2　投資額の算定 次の算定式により局ごとＳＴＰ投資額を求め、全ての局について当該投資額を合算し、ＳＴＰ投資額を算定する。 局ごとＳＴＰ投資額 ＝ＳＴＰユニット数×ＳＴＰユニット単価 ＋ＳＴＰリンク数×ＳＴＰリンク単価